

GX率先実行宣言

社会全体のGX加速化に向けて、GX製品・サービスの早期社会実装が極めて重要であることから、当社は自らのScope 1、2の削減取組に加え、これらの製品・サービスが有するGX価値の評価を通じてGX製品の社会実装に積極的に貢献することで、サプライチェーン全体でのGXを推進することを宣言します。

1. 早期の社会実装に貢献するGX製品

当社は、以下に関連するGX製品の早期社会実装に貢献します。

a.	分類	GI基金支援技術を活用した製品
	対象	次世代型太陽電池の開発
b.	分類	GI基金支援技術を活用した製品
	対象	次世代型太陽電池の開発

2. 具体的な行動内容

当社は、前項で選択した事項に関連して、具体的には以下の行動を推進することで、GX製品の早期社会実装と社会のGXに貢献します。

a.	次世代型太陽電池の開発
対象行動	研究開発・実証
概要	当社は、ビルの窓や壁面を活用する「建材一体型太陽光発電」の開発を進めています。ペロブスカイト太陽電池等を用いた建物に実装可能な「建材一体型太陽光発電」の実証実験を進めることにより、YKK APがこれまで進めてきた「窓で断熱」の省エネ政策に「窓で発電」の創エネ政策を加えて社会実装を目指すと共に、持続可能なまちづくりに貢献してまいります。
b.	次世代型太陽電池の開発
対象行動	宣言対象製品の調達・購買
概要	当社は、2040年度のカーボンニュートラル実現に向け、自社敷地内への自家消費型再生可能エネルギーの導入を推進しています。これまでは建屋の屋根や遊休地を中心に設置してきましたが、今後は従来型のパネルでは設置が困難だった場所へも対象を広げ、さらなる太陽光発電の導入加速を図ります。

3. サーキュラーエコノミーの推進

当社は、サーキュラーエコノミーを推進しGXを実現するため、自らのサーキュラーパートナーズ（CPs）への参画や、製造業者と廃棄物リサイクル業者との事業連携を自ら進めるとともに、再生材の調達を積極的に検討することによって、新たな資源の使用や消費を最小限に抑え、既存の資源の価値を最大化する経済システムの構築を目指します。

4. 温室効果ガス削減目標の設定

当社は、サプライチェーン全体でのGXを推進すべく、Scope3の削減に向けて以下の目標を設定します。また、第2項に記載した行動内容が、Scope3の削減に対してどのような効果があるかを以下に示します。

※ 第2項に記載した行動内容がScope1,2の削減に資する場合は、Scope1,2の削減に関して以下に示します。

a.	次世代型太陽電池の開発
削減対象	
目標年度	
基準年度	
目標削減率	
削減目標における選択対象の位置づけ	

b.	次世代型太陽電池の開発
削減対象	Scope 1 + 2
目標年度	2030年度
基準年度	2013年度
目標削減率	80%
削減目標における選択対象の位置づけ	2030年度にスコープ1・2排出量の80%削減（2013年度比）を目指す当社グループは、再生可能エネルギーの自家消費拡大を図っています。これまでの設置箇所に加え、今後は技術的制約のあった建屋屋根や壁面への導入を本格化させることで、脱炭素社会の実現に向けた取り組みを加速させます。

5.GX製品の社会実装促進に向けた目標の設定

当社は、前項に掲げた削減目標に基づき、以下の時間軸・定量的目標に沿って、第1項で選択したGX製品・技術及びそれらから派生するサービスの社会実装に貢献します。

a.	次世代型太陽電池の開発
目標年度	
定量的目標	
選択対象に関する定量的目標の概要	

b.	次世代型太陽電池の開発
----	-------------

目標年度	
定量的目標	
選択対象に関する定量的目標の概要	

6.適用範囲

当宣言は、以下の範囲まで適用されます。

適用範囲	自社単体
------	------

当社は、この宣言に基づいてGX価値を評価し、GX製品の早期の社会実装に貢献することで、サプライチェーン全体でのGXを推進してまいります。

2026/3/26

Y K K A P 株式会社
専務執行役員 サステナビリティ統括部長 姫野 賢